

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
25	川崎市立戸手小学校	後藤 美智子

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>「豊かな心をもち 主体的に生きる 子どもを育てる」 児童、家庭、地域の実態に応じ、創意ある教育活動を充実させるために、一人一人の教育的ニーズに対応した、きめ細やかな指導をさらに徹底し、知・徳・体のバランスの取れた「豊かな心」「主体的に生きる力」を育成していく。 ① 確かな学力(かしこく)＝知 ② 豊かな人間性(やさしく)＝徳 ③ 健康・体力の増進(すこやかに)＝体</p>	<p>○ 児童一人一人が生きる学年・学級経営の推進 ○ 「主体的・対話的な学び」による確かな学力の育成 ○ 校内授業研や外部関係機関の研修による授業力向上 ○ 教科、領域を通じた人権尊重教育の推進 ○ 体力向上、健康教育、防災教育の推進による健康で安全な学校生活の実現 ○ 保護者や地域の方による学校教育ボランティアの充実 ○ 積極的な情報発信による教育活動への理解と促進 ○ 学校評価を生かした新しい教育活動の構築</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 児童一人一人が生きる 学年・学級経営の推進	<p>○ 学年全体を担任全員で指導・支援する体制の充実 ・ 職員の得意分野を活かして、学年内で担当を分担し、指導にあたる ・ 相手を認め尊重し、安心して学校生活ができるよう学級・学年で指導にあたる ○ 学年を中心としたOJTの推進 ・ 学年会を活用した教材研究や情報交換</p>	<p>・ 学年会等で役割を相談・分担し、指導・支援にすることができた。 ・ 交換授業を行い、他のクラスの児童とも関わりをもつようになり、児童理解に役立てた。 ・ 認め合う、自分で考える、友達を尊重するなどの指導を継続し、学校生活を楽しく過ごしている児童が多かった。 ・ 学年会で児童の様子を共有し、他の教職員とも情報交換を積極的に行い、教職員全体で共通理解を図りながら、児童支援を推進することができた。</p>	<p>・ 情報交換を行い共通理解を図るために、時間の確保が必要である。学年会の時間を十分に確保できるように年間計画を立てる。 ・ 今後も引き続き交換授業を行い、児童理解・指導に役立てる。 ・ 今後も、良さを認め合える場を多く設け、児童一人一人がいける学級・学年経営を進めていきたい。 ・ 今後も担任と支援教育コーディネーターが連携し、児童指導の充実を図るとともに、学年の中で児童の情報をとどめることなく、多くの教職員が状況を把握しながら支援にあたる。</p>
2 「主体的、対話的な学び」による確かな学力の育成	<p>○ 校内研究の推進による授業改善 ○ スペシャルタイム等による個に応じた学習の機会の充実 ○ 学校図書館司書と連携した読書活動の充実</p>	<p>・ 年間を通じ校内授業研究会を各学年で実施した。講師からの指導・助言を参考にし授業を改善し、実践することができた。 ・ 個別の指導が必要な児童へ少人数指導ができるように、保護者の理解を得て、スペシャルタイムを年2回実施した。参加した児童は学習がわかる、楽しいといった実感をもち、その後の学習への意欲が高まった。 ・ 不登校児童や不登校傾向の児童へ別室登校やGIGA端末の活用による学習などの環境を整え、学習支援や登校支援を行った。 ・ 授業におけるGIGA端末の活用について、ミニ研修を行い、教職員がGIGA端末を使った学習を組むようにした。また、持ち帰りも実施し、家庭学習でも活用した。 ・ 学習に関連する図書を集めるために、学校司書と連携して用意したり、幸図書館に各学年の担任が借りに行ったりすることで、各学年読書環境を整えることができた。</p>	<p>・ 意欲をもって取り組み、「わかることできること」が増えることで、自信につながり、さらに「やってみよう」と次の意欲につながっていくような授業を心がけていく。 ・ 保護者に理解を得てスペシャルタイムを実施することができた。次年度も同様に計画し実施していく。 ・ 学校司書や地域の図書館との連携を継続し、本に親しむ環境を整えていく。知識を増やす、感性が豊かになる読書活動を検討し、推進していきたい。 ・ 今後も引き続き、個に応じた最適な学習環境を検討し、学習への意欲、理解につながるようにしていく。</p>

3	校内授業研や外部関係機関の研修による授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究の推進による授業改善 ○外部研修への積極的な参加による授業力向上 (GIGA端末の活用を含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究テーマを「自分発→みんな経由→自分行き」の学びを目指して」とし、自分で考える、根拠をもって表現する、意見を認め合う、自分の力で課題を解決しようとする授業を実践してきた。その成果として、児童は学習中に先生や友達の話聞き、学びに生かしているという実感をもつことができた。しかし、自分の思いや考えを表現できたということについては課題となった。 ・小学校教育研究会等への授業研究会に積極的に参加し、より良い授業を目指して研鑽を積んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分の思いや考えを表現できるような方法を色々模索しながら、授業改善に努めていく。 ・来年度も外部研修に積極的に参加し、児童の学びが深まるような授業を目指していきたい。
4	教科、領域を通じた人権尊重教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○SDG'sの具体的な取組の促進 ○共生・共育プログラムや効果測定の適切な実施と教育相談の充実(研究推進協力校) ・クラスの中でお互いに認め合える場を設ける ○体験活動や行事等の工夫や異学年交流の推進による豊かな人間関係づくり ・学校行事や各教科・領域の場で相手を意識したかかわり方が持てるような場の設定 ・国や文化の違いの子に対して理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDG'sの具体的な取組の促進では、学習活動との関連性を意識して取り組むことができなかった。 ・年間の生活目標として「すすんであいさつをしよう」と掲げ、校門でのあいさつ運動や校内での挨拶を指導してきた。しかし、挨拶ができていないという児童がいたり、保護者、地域からも同様の意見があった。 ・個人面談の実施や月1回の教育相談日の設定などいつでも相談できる体制を整えてきた。しかし、相談体制では保護者への学校の支援体制についてのお知らせが十分できていない。 ・帰りの会で日頃からお互いに認め合ったり褒め合ったりする機会を設けたことで、温かい人間関係作りに役立った。 ・一人一役で係や実行委員等を受け持つ場を設定した。一人ひとりが活躍し、お互いを尊重し合うようにした。 ・国際教室を中心に他国の文化を身近なものとして捉えられるような掲示物を作成し、掲示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDG'sの具体的な取組の促進を具体的に検討し、学習活動の関連性をみながら取り組んでいく。 ・生活目標の年間目標では、「すすんであいさつをしよう」を掲げている。年間目標を月の重点目標でも取り上げていく。また、児童会の活動でも積極的に取り組んでいくとともに、教員も児童に対してお手本となるように、積極的にあいさつをする。 ・他の学年の人と仲良くなる楽しさを感じてもらうために、来年度は、ペア学年を固定して対面で行う計画を立てている。また、学習の中で他学年とかかわりをもって取り組んできたものは、次年度も継続していく。 ・個人面談や月1回の教育相談日を設定していることの周知を一層徹底し、また、今まで以上に「担任または担任以外でも、いつでも相談できる体制作り」に努めていく。 ・国や文化の違いを理解できるような取り組みを継続していく。
5	体力向上、健康教育、防災教育の推進による健康で安全が学校生活の実現	<ul style="list-style-type: none"> ○ガイドラインに基づく新型コロナウイルス感染症予防対策の推進 ○防災教育、安全点検の実施と推進 ○健康課題を踏まえた保健教育、食育の実施 ○キラキラタイム等の充実による体力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年での取り組みや、全校での取り組み(1年生を迎える会やスポーツフェスティバル、6年生を送る会など)の行事では、ねらいにむかって協力し活動する楽しさを実感できる指導を行うことができた。 ・朝の時間を活用したキラキラタイムでは、校庭・体育館・教室配当の計画を立てると共に、教室でも取り組める活動内容を載せたワークシートを全学年共通に作成した。 ・年間を通じて計画に基づき、学年の応じた保健指導や食に関する指導を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事では今後も、児童がめあてに向かって力を発揮できるような指導を心がけてく。 ・熱中症対策が必要な時期の授業のあり方を見直していく。 ・発達段階に応じたキラキラタイムを検討し、体力の向上が図れるよう個や学級での活動を工夫し、充実させる。 ・定期健康診断の結果や生活の様子などから健康課題を整理し、具体的な取組を実施していく。

6	保護者や地域の方による学校教育ボランティアの充実	○学校教育ボランティアの地域の教育力の活用と推進 ・学習内容との関連を考えながら、時期や開催する出前教室を計画 ・教育活動サポーターやICT支援員との協力 ・担任や読み聞かせボランティアの方による低学年への読み聞かせ ・園芸・清掃・水泳ボランティアの方による学校環境の整備と学習支援への協力	・主に社会科、音楽、総合的な学習などで外部講師の方に協力をいただいた。コロナが明け、出前授業などで外部講師の方をお呼びする回数が増えてきた。 ・各学年で出前授業や外部講師の授業を行い、教育効果の高い授業を実施することができた。 ・読み聞かせボランティアさんによる読み聞かせ活動を、継続して取り組んでいただいた。 ・読み聞かせ、図書、清掃、園芸、水泳など学校教育ボランティアの方を募り、協力を得ることができた。	・出前授業や外部講師による授業は今後も、教育効果を検証しながら、体験活動や外部講師の方から学ぶ機会を設定していく。 ・低学年の読み聞かせは次年度も継続する。中・高学年も読み聞かせや朝読の時間を授業時数に影響のない程度に計画し実施していく。 ・学校ボランティアの募集を継続し、児童の学習環境の維持を図っていく。また、事前説明会や定期的な会議を行い、ボランティアとの連携を図っていく。
7	積極的な情報発信による教育活動への理解と促進	○おたよりやホームページの積極的な活用による情報の発信 ・授業参観・懇談会・学校説明会・学校報告会など定期的に保護者や地域の方が来校する機会を活用し、学校での取り組みを説明したり報告したりする場を設定する ・各学年の取り組みを毎月HPへ掲載したり、学校便りにHPのQRコードと掲載したりし、教育活動を知る機会をつくる。	・年間を通じて授業参観を行い、授業を見ていただく機会を設けた。学校公開日に人権や情報モラル教育に関わる授業を公開した。学校説明会・学校報告会は、テレビ放送で学校教育目標や学校運営に関する内容を伝えた。 ・学校だよりに、月半ばに学校ホームページに各学年の学習の様子を掲載していることと、戸手小学校ホームページのQRコードを載せたところ、保護者に周知されるようになってきた。 ・地域教育会議や町会の会合等で学校の取り組みをお知らせすることができた。	・今後も継続して、学校だよりや学年だより、学校ホームページを活用して、学習の様子を伝えていく。また、学校だよりや学年だよりを電子化し、毎月のメールで学校ホームページへリンクするように周知していく。 ・今後も地域への会議等の機会を通じて、学校の取り組みをお知らせしていく。
8	学校評価を生かした新しい教育活動の構築	○学校運営協議会の推進と学校評価の充実 ・学校評価の見直しの実施	・予定通り年3回の学校運営協議会を開催することができた。6年生の代表委員会児童からも学校で話し合っていること、活動していることについて報告する場を設けた。 ・学校教育目標に基づき学校評価項目を検討し、項目の見直しを行った。児童、保護者、教職員、地域(外部評価)と同様の項目にし、今後の学校教育活動に生かせるようにした。また、今年度もアンケートフォーム上で行き、回答しやすいように配慮した。	・各学年、今年度の実施時期をふりかえり、次年度に向けた引継ぎをしっかりとっていく。 ・学校運営協議会の内容を検討し、充実を図っていく。 ・保護者にも学校運営協議会の内容が伝わるように、次年度も学校だよりを活用していく。 ・学校評価の検討を継続し、教育活動の充実を図っていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> 各学年、学級それぞれに授業に集中していました。友達関係は良いと思いました。 児童の積極性、自分の意見を自分の言葉で言えて素晴らしい。みんな元気にしていてよかったです。 各学年児童の発言、生活態度より実際ははるかにしっかりとしており良い気づきになりました。 作品を多く展示されている点、とても良いと思いました。 言葉で感想を記入する授業では、文章化できる子となかなか文章化できない子どもとのひらきがあるように思いました。 時代が変化し価値観が多様化してきているので、人権意識の向上を図り、協調性を身につけていくことが大切であると感じます。GIGA端末の活用や外国語の学習の充実も行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価をはじめ、学力状況調査や体力のテスト、健康診断の結果などのデータを活かしながら、次年度も効果的な教育活動を計画し実施していく。 生活アンケートや共生共育の結果をはじめ、担任や学年だけでなく、職員全体で児童の様子や課題について無理なく情報共有ができるような取り組みと時間の確保を行った。来年度も、継続して児童理解に努め、適切な児童指導を行っていく。また、相談体制を検討し、充実を図っていく。 学校行事や校外学習、出前授業は、昨年度までの教育効果や成果を踏まえ、計画を立てた。学習効果を踏まえた、スポーツフェスティバルや各学年の学習内容に沿った出前授業や校外学習を行うことができた。次年度も児童に身につけさせたい資質や能力を踏まえ教育効果の高い学校行事や出前授業や校外学習を計画し、取り組んでいく。 児童個人票など順次オンライン化を進めていく他、デジタル化や環境への配慮など社会の状況の変化も考慮した学校教育活動や取り組みを行っていく。